

総合学際科目「主題別ゼミナール」の実践と課題

——「インターネット活用法」ゼミの事例紹介を通して——

大 津 正 道*

A Practice and a consideration of Thematic Seminar in HIT

——by an example of practical usage class of the Internet——

Masamichi OHTSU*

Abstract

This report shows a short review of a voluntary subject 'Thematic Seminar' in HIT (Hachinohe Institute of Technology). By making a general survey and its sample consideration of the Internet-class, we came to two results. 1) The seminar with various themes gave students a great incentive to step-up work. 2) The imbalance between over-and undersubscribed courses are to be revised.

Key words: small class education, liberal arts, Internet, information literacy

1. 報告のねらいと構成

1.1 報告のねらい

八戸工業大学は工学部6学科からなる単科大学である。本学で共通教育を担当する総合教育センター（文系・体育系スタッフ18名）は、複数学年・学科混成クラスの多彩なテーマをもつ少人数ゼミ「主題別ゼミナール」を実施している。ここでは、個別事例の紹介をまじえた実践報告を通して、その効果・問題点・今後の展望を探ることとしたい¹⁾。

1.2 報告の構成

- 1) 主題別ゼミの概要
- 2) カリキュラム上の位置づけ
- 3) H.14年度ゼミのテーマ一覧とシラバス例
- 4) H.13年度ゼミの履修者・単位取得者デー

タ分析

- 5) 個別ゼミ（インターネット活用法）の実施状況報告
- 6) まとめ

2. 「主題別ゼミナール」の概要

2.1 科目の特徴

約20テーマから自由に選べる選択科目としてH.8年度から始まった主題別ゼミナール（ゼミ定員は各20名）は学生に大好評であったが、H.13年度からこれをⅠ、Ⅱに分割して在学中に2テーマを受講できるように拡大運用中である。

2.2 実施形態

本科目は意欲ある学生の興味を引き出す選択科目なので、各テーマの定員を20名以内とし複数学年・学科混成クラスで実施。テーマ内容によっては、短期集中開講も可能にしている。担当は総合教育センター全教員と専門学科スタッ

平成14年12月26日受理

* 総合教育センター・教授

フ有志が行なっている。

2.3 実施内容

ゼミ内容は、時事・社会問題から映画・音楽・文学論、語学検定ゼミ、海外短期研修、インターネット活用法、スポーツ実習、ソーラーカーや生命倫理などに及ぶ多彩なもので、受講生の選択の幅を増やすために、毎年内容を改定して意欲ある学生の資質を伸ばす。H.14年度は22テーマを開講している。

2.4 ねらい

少数でも意欲ある学生の資質を伸ばす事によって、大学全体の勉学雰囲気の向上をもたらすことをめざす。これによって受講生の知的満足度の向上を図るとともに、在学生の中にリーダー的存在を育成する効果が期待される。

3. 「主題別ゼミナール」科目のカリキュラム上の位置づけ

下の表1は、大学の共通教育科目課程表の主要区分と主な科目を表している。このうち、「主題別ゼミナールⅠ、Ⅱ」は総合教養（区分）の総合学際（分野）の少人数ゼミ科目であり、もう一つの少人数ゼミである「オープニングゼミ

ナー」（導入転換区分、大学への関心分野）とともに、本学教養部門が担当する2つの目玉科目といえるものである。

すなわち、「オープニングゼミナール」が1年前期必修で全学生の日本語表現力＝基礎力アップを目標とする少人数ゼミであるのに対して、「主題別ゼミナールⅠ、Ⅱ」は全学年・学科にオープンに開設される選択ゼミであり、少数でも意欲ある学生の資質を伸ばすことをめざしているのである。「オープニングゼミナール」については、すでに報告されているので²⁾、ここではこれと対極にある主題別ゼミを紹介することとした。

4. H.14年度開講の「主題別ゼミナール」テーマ名一覧

表2はH.14年度に開講されている主題別ゼミのテーマ一覧（全22テーマ）である。

時間割上の配置では、これらのうち14テーマがゼミナールⅠとして1年後期に、残りの8テーマがゼミナールⅡとして2年前期におかれているが、いずれの場合も全学年の受講を認めている。各テーマを担当する教員は、教養・語学・体育の分野が総合教育センター全員で当たり、専門分野は専門学科教員の有志にお願いしている。

ゼミのテーマ選定は、学生が興味を持つよう

表1 H.13年度より実施中の共通科目課程表より

区分	分野	科目	単位	開講	
導入 転換	大学への関心	オープニングゼミナール	必修2	1年前期	<ul style="list-style-type: none"> ・担当：教養全教員，少人数ゼミ ・日本語表現力の基礎力アップ（共通自作テキスト使用） ・1年前期必修→全員の底上げ（昨年度本研究会で報告）
	工学への関心	（専門学科担当）			
総合 教養	人間科学	（人文社会自然系科目）			<ul style="list-style-type: none"> ・担当：教養全教員＋専門有志，少人数ゼミ ・多彩なテーマで意欲ある学生の興味を引き出す ・全学年・学科オープン開設→リーダ的学生の養成
	国際コミュニケーション	（語学系科目）			
	体育科学	（体育系科目）			
	総合学際	主題別ゼミナールⅠ 主題別ゼミナールⅡ	選択2 選択2	全学年	
	工学基礎科目	（理数・実験・情報系）			
	リメディアル科目	英語・数学			

表2 H.14年度開講ゼミ一覧

	ゼミナール名	分野	集中
1	就職のための国語実践力養成講座	教養	○
2	映画論入門		
3	異界論		
4	現代国際社会事情		
5	ドイツを知る－EUを見つめながら		
6	近代化学史		
7	インターネット活用法		
8	ビデオコース：英語、イギリス、イギリス人	語学	○
9	ホントのアメリカを見よう！		
10	海外夏期中国語研修（集中）		
11	海外夏期英語語学研修（集中）		
12	独検ゼミナール		
13	独検文法ゼミナール		
14	中国語検定試験合格をめざして		
15	世界の格闘技	体育	○
16	テーピング		
17	雪だるま〔冬季各種スポーツ〕		
18	ウォーキングとトライアスロン	専門	○
19	応用解析		
20	生命倫理		
21	ソーラーカー		
22	大規模社会基盤施設		

な内容で、同時に教員側も楽しめるものを心がけている。またゼミの開講形態は、時間割通りに特定曜日の5時限（16:10から90分）が原則だが、季節性やゼミの性格に応じて短期集中開講（7テーマ）も可能にして、弾力的に運用している。

各テーマの実施に当たって必要とした消耗品類の経費に対しては、担当教員の申請に応じた必要経費の補助を行っており、このために年間予算として100万円を用意している。

5. 主題別ゼミナールのシラバス例

主題別ゼミテーマのいくつかのシラバスを紹介しよう。図1の「ソーラーカー」は専門学科教員が担当する4つのゼミのひとつで、この担当者は環境建設工学科所属である。他の3つの専門分野ゼミ担当者の専門は数学、生物、土木になる。

図2と図3はいずれも総合教育センタースタッフが担当する短期集中ゼミであり、それぞれ冬期と夏期に集中実施している。なお、米国と中国での海外語学研修ゼミは大学全体が実施体制と予算面でバックアップしており、毎年20～30名が参加している。

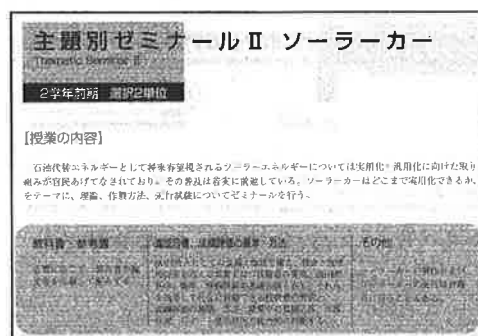


図1 専門学科教員担当ゼミ



図2 季節性による集中ゼミ，体育教員

主題別ゼミナール I 海外語学研修（中国）

Thematic Seminar I

1・2・3・4年後期 選択2単位

【授業の内容】

本ゼミは、本学での卒業研修と現地中国における研修からなる。現地の研修は教室内での語学研修と各地の観光、見学を行う予定である。語学研修は初歩のレベルの学生を対象に、日本語の分かる現地専任教員が日常会話の指導に当たり、レッスンは日本語と中国語を交えた形で進められる。また、教室で習得した中国語は観光、見学、買い物などの場で実際に使うことで定着を図る。

本ゼミの目的は、上記の諸活動を通して、語学力の向上はもちろんであるが、中国の社会、文化、歴史の理解を深め、国際感覚を養うこととする。

【教育の目標・時間・授業計画】

授業計画
 本学における研修（下記項目を3回行う。）
 1. 本研修の内容説明と前年の研修結果報告
 2. 中国の歴史、社会、文化に関する基礎的な学習
 3. 基礎的な発音練習

現地における研修
 午前中に90分の語学講座を3回、計7日間実施する予定である。
 上記以外の時間は観光、見学、自由時間にて行われる。

教科書・参考書	達成目標・成績評価の基準・方法	その他
テキストは現地で配布される。本学図書館とは関係資料を配付する。	終了直後の振り返り、自己評価をする。その結果を報告する。授業態度、授業での積極的な参加の有無は上級成績とする。	本学での目標・時間・場所は、前年度同様で実施する。また、このゼミには本学職員34名、71名が参加する。

図3 海外研修・集中ゼミ，中国語教員

6. H.13年度の履修者・単位取得者のデータ分析

表3は、H.13年度に開講された主題別ゼミ18テーマの学科・学年ごとの履修者・単位取得者数を示している。上段の表は履修者数であり、当初の受講希望者（500名前後）を各ゼミ20名以内に絞り込んだ後で411名となっていて、全学生の1/5が正規の受講生であった。学年・学科の分布を見れば、学年では1年が半分以上だが2～4年生もそれなりに受講しており、学科別ではエネルギー工学科が時間割の関係で少なかったことを除けば、あまり片寄りは見られない。

下段の表は単位取得者数を示す。受講者に占める取得者数315名の割合は77%となり、夕方の実施時間や完全選択科目であることを考えれば、受講生の意欲の高さを表しているといえよう。ただし、ここ数年の実施経験で問題点とし

て浮かび上がっているのは、ゼミのテーマによって受講希望者の片寄りが大きいことである。希望の少ないテーマは翌年に内容変更するか受講希望の柔軟な変更受け入れなどが、今後の課題であろう。

7. 個別例：「インターネット活用法」ゼミの紹介

7.1 シラバスとゼミ内容

以上で概要を紹介してきた主題別ゼミナールの個別実践例を、報告者が担当する「インターネット活用法」ゼミを通して、さらに具体的にしておきたい。

（ゼミの開講形態）このゼミは短期集中で10月～12月末の大学休業日に終日実施している。理由は、学内ネットワークの混雑回避と集中作業の必要性からである。集中ゼミ3回の前後に事前・仕上げゼミを行なっているのも、実質的

表3 H.13 年度履修者・単位取得者データ
（主題別ゼミ，受講生数，H13 年度）

学科\学年	1 年	2 年	3 年	4 年	計	学生数
機械	50	6	12	5	73	421
電気	43	1	14	4	62	363
建設	69	0	21	2	92	406
建築	48	26	8	0	82	449
エネルギー	15	3	9	3	30	292
情報	51	13	8		72	294
計	276	49	72	14	411	
学生数	540	457	556	672		2225

（主題別ゼミ，単位取得者数，H13 年度）

学科\学年	1 年	2 年	3 年	4 年	計
機械	38	2	12	3	55
電気	36	1	11	4	52
建設	46	0	16	1	63
建築	39	18	7	0	64
エネルギー	10	3	6	3	22
情報	40	11	8		59
計	209	35	60	11	315

なぜゼミ回数は 17～18 回になる。

（ゼミの内容）ノートパソコン 10 台を学内ネットに臨時接続して，インターネットの基本的な使い方と情報収集法を体得することをめざしている。

（学生への課題）次の 3 つを受講生に課している。

1. ウェブ・メールを使いこなす。
2. WWW での情報収集法を学ぶ。
3. 個別テーマを設定し，ネット情報を整理してホームページを作る（3.を完成すれば，単位を与える）。

7.2 受講者・単位取得者データ（過去 6 年間）

（正規受講者の決め方）希望学生に受講希望理

由書を書かせて，意欲あると判断できる 20 名に絞る。除外された学生には他ゼミや次年度受講をうながす。なお，H.10 年度以降は全くの初心者を除くため，上級学年を優先している。

（受講者・単位取得者の推移）正規受講者の 8～9 割がコンスタントに課題をこなして合格している。集中ゼミで終わらなかった者も，数日間の仕上げゼミで完成させている。

（助手学生の活用）前年度受講者からネット操作に慣れた上級学生を翌年アシスタントとしてゼミの助手に活用しており，機器類の設定・設置や受講生の指導補助にあたっている。このゼミに関しては，リーダー的学生の育成という本ゼミナールの狙いが達成されているといえよう。

なお，初年度のゼミについては，かなり詳細な実践報告をすでに発表済みである³⁾。また，ゼミ実施教室は H.13 年度までは学内の 1 室に臨時にノートパソコンを設置して，いわばゲリラ的に月 1 回行なっていたが，今年度からは新設された少人数用パソコンルームを利用している。

8. ま と め

8.1 ゼミの効果

主題別ゼミナールは，複数学年・学科の混成クラスで行なう選択科目であり，選抜された 20 名前後の受講生を対象にして実技的・実践的な内容を中心とした少人数ゼミである。その効果は以下の 3 点にまとめられよう。

- (1) 少数でも意欲ある学生の資質を伸ばすというゼミの目的はかなり達成されており，学生のなかには単位不要だが翌年も同一ゼミを受講する者が出ている。
- (2) 毎年多彩なテーマを用意することによって，専門以外への理解と学びの姿勢の拡大が図られている。
- (3) 担当教員の労力と経費を考えれば，大変に贅沢な科目といえるが，それに応じた

主題別ゼミナールⅡ「インターネット活用法」 Thematic Seminar II		
2・3学年後期 選択2単位		担当教員：大津正道
【授業の内容】 新入生の皆さん、そして2・3年生の諸君！ 本学ではいま学生の誰もが、LANに接続された学内のマシンを使って、インターネットに接続して授業と交際できます。そのためには、電子メールの使い方やワールド・ワイド・ウェブ（WWW）の扱いに慣れる必要があります。このゼミでは、インターネットとネットワーク利用に関して必要となる、さまざまな操作法を訓練しながら、最後には自分のホームページを作成させます。海外のWWWを見たり読んだりするには、外国語の読解力が当然必要ですよ！がんばりましょう。		
【教育の目標・時間、授業計画】		
第1回 ガイダンスと受講希望者アンケート（ゼミ参加意欲、パソコン経験など） 第2回 受講生（20名）の決定、ゼミ実施日程の発表 第3～第6回 第1回ゼミ（10月後半の大学休業日、10:00-16:00） 第3回 インターネットとは何か、どう使うのか 第4回 学内ネットに接続されたノートパソコンを操作する 第5回 WWW（ワールドワイドウェブ）でネットサーフィン 第6回 電子メール（ウェブメール）の受信作業とメール交換の練習 第7～第10回 第2回ゼミ（11月後半の大学休業日、10:00-16:00） 第7回 WWWでの情報検索法と訓練（日本語と英語で） 第8回 ホームページ作成法（Netscape使用）とデータ転送（ftpソフト使用）の説明 第9回 ホームページ作成の練習 第10回 インターネットの様々な利用法の紹介（ネット最前線情報） 第11～第14回 第3回ゼミ（12月中旬の大学休業日、10:00-16:00） 第11回 ウェブで情報収集する方法の訓練 第12回 ウェブで収集した情報をホームページに利用する 第13回 ウェブで収集した情報をホームページに利用する（続き） 第14回 ホームページのデータファイルをftpでサーバーマシンに転送する 第15回 ホームページ作成の仕上げ作業		
教科書・参考文献	達成目標、成績評価の基準・方法	その他
	1. 受講生は20名、1人1台のパソコンに接続した教室で授業を行う。 2. 受講生は20名、1人1台のパソコンに接続した教室で授業を行う。 3. 受講生は20名、1人1台のパソコンに接続した教室で授業を行う。	1. 受講生は20名、1人1台のパソコンに接続した教室で授業を行う。 2. 受講生は20名、1人1台のパソコンに接続した教室で授業を行う。 3. 受講生は20名、1人1台のパソコンに接続した教室で授業を行う。

図4 「インターネット活用法」シラバス

表4 「インターネット活用法」ゼミの受講者・単位取得者データ、過去6年間

	H.9 後期	H.10 後期	H.11 後期	H.12 後期	H.13 後期	H.14 後期
受講希望者	202	31	約 40	約 40	約 50	46
正規受講者	21	23	22	22	20	20
(1, 2, 3 年数)	(17, 4, 0)	(9, 5, 9)	(5, 10, 7)	(3, 5, 14)	(4, 7, 9)	(3, 15, 2)
単位取得者	16	18	20	20	18	18
助手学生	2	2	2	1	1	2

(H.10 年度より、パソコン操作に慣れた上級学年を優先)



写真1 ノートパソコンによるゼミ, H.13



写真2 パソコンルームによるゼミ, H.14

確かな手応えが学生側から得られていると思われる。

8.2 ゼミの問題点

ゼミの問題点は2つ、テーマによる受講希望者の片寄りと各テーマへの受講生の均等な配分方法にある。第1の問題である人気ゼミと不人気ゼミの調整には、目下の対策として翌年度に別テーマへの変更を担当者に依頼しているが、これを組織的に実施するにはゼミ受講状況の迅速・正確な把握＝ゼミ実施報告書の継続的な作成が必要である。第2の問題のゼミ受講者数の均等化については、教員が個別的に対応している現状を改善して、第2, 第3希望をとるといようなオープンで公平なシステムに変えていく必要がある。

8.3 ゼミ報告書の公表と学内外配布

我々がこれまでに公表してきた報告書は2つある。

- (1) 主題別ゼミナール報告書, 平成11年版, 83 p., 2000.7.20 (学内配布)
- (2) 海外研修報告書 (米国・中国), 毎年出版, 2001年度版は42 p., 2002.1.30

主題別ゼミ全体の実施報告書は(1)であり、各ゼミの実施概要と主要ゼミで提出された受講

生のレポートがまとめられている。上記の問題点解決のためにも、今後の継続的な公表をめざしている。(2)は海外研修だけを独立してまとめたもので、大学全体の支援を背景に毎年出版し、学内外に配布している。

8.4 予算措置

最後に、本学総合教育センターは、少人数教育(オープニングセミナー、主題別ゼミナール)による教養教育の活性化をテーマに、文部科学省からH.12年度より「教養教育改革推進経費」の補助を受けていることを申し添えておきたい。

注

- 1) 本報告は、平成14年9月19日に北海道函館市で開催された第52回東北・北海道地区大学一般教育研究会で報告したものを元としている。
- 2) 川守田礼子, 「オープニングセミナー」における導入転換教育について, 『第51回東北・北海道地区大学一般教育研究会研究集録』(平成13年9月開催), pp. 60-66.
- 3) 大津正道, 主題別ゼミナール「インターネット情報収集術」実践記録, News Network (八戸工業大学計算機委員会発行), Vol. 8, No. 1, p. 44-54, March 1998.